

郷土料理を活用した まちづくり

拓殖大学国際学部

大口・太田・佐藤・白川

富士川町の郷土料理とは？



「みみ料理」です。

・地元の方の話

→ここ数か月食べていない。

→ほうとうはよく食べるけど...



地元の方にとって「みみ」は当たり前にある食事の一つである。

みみ料理で町おこしを

観光客...その地域の食事を食べたい

→「山梨県」ではなく「富士川町」の名物のほうがより良い。

富士川町の方にとっての当たり前=観光客が求めるもの

みみ料理の現状

問題点

①他県からの観光客への認知度が低い

→(例)PR活動を増やす(B-1グランプリ出店など)

②簡単に食べられない

→(例)道の駅で外の露店に出すなど食べる機会を増やす

活用提案①

①名称を考える

(例) **富士宮**焼きそば、**盛岡**冷麺など

その地域の名前を入れる＝富士川町の認知度UPに繋がる

②ほうとうとの差別化

富士川町の独自性を出す

(例) 平林トマトを使う、ゆずで味付けをする等

活用提案②

③みみ鍋のインスタント食品

他県の郷土料理などですでに行われている。

(例)八戸せんべい汁



富士川町のお土産の代表となる可能性も秘めている。

まとめ

- ①地域住民にとっての当たり前が観光客のニーズである
- ②「今すぐ」ではなく「長い目」で見る
- ③アイデアを実行していくためには地元の方との連携がキーポイントである